

システム概要

- ① 標高約200メートルの茶園に気温・湿度・日射量・積算温度・土壤温度・土壤水分・風速・風向等を計測するセンサーとカメラを設置し、自宅のパソコンにてリアルタイムで数値や映像を確認できるシステム。
- ② 機器は、2haの茶園の中央に設置し、遠隔操作できるカメラで茶園の状況を監視したり、蓄積された各種データを基に適切な生産管理を（特に土壤温度や土壤水分は、防除時期や施肥管理に関係する）実施。



導入経緯・背景

- 雲仙茶の組合は、5経営体で約11haの茶園を栽培。このうち、長田製茶は雲仙市瑞穂町の中山間地において5haで茶を栽培し、製品製造・販売までを一貫して実践。
- 関係機関からの防除情報は、県内の主要産地の情報になるため、雲仙市にある園地に適合させ、安定的に高品質の茶を早期に生産するには、栽培園地単位の環境を計測し、適切な生産管理を行う必要があるため本システムを導入。

導入者コメント(効果・課題等)

- 茶園5haのうち、残り3haへのセンサーの導入も計画している。
- 本システムの導入により、現在年間約6tの茶の生産量を将来的に1割程度引き上げ、また独自の製法でより良い商品を早期出荷することが可能になると考えている。
- センサーの増設に当たっては、IT投資に対する支援事業により助成があればお願いしたい。